

令和4年度

社会福祉法人長野りんどう会

事業報告

令和5年6月

# 目 次

項 目	ページ
はじめに .....	1
一 法人運営 .....	2
二 各サービス事業の実績	
1 指定生活介護事業(フレッシュとくま) .....	9
2 指定短期入所事業(フレッシュとくま) .....	11
3 指定自立訓練(宿泊型)事業(フレッシュとくま) .....	12
4 指定自立訓練(生活訓練)事業(フレッシュとくま) .....	13
5 指定共同生活援助事業(グループホーム) .....	15
6 指定自立生活援助事業(自立生活支援室) .....	16
7 指定就労継続支援B(Ⅰ)型事業(ワークス上駒) .....	18
8 指定就労継続支援B(Ⅲ)型事業(ゆったりんどう) .....	20
9 指定就労定着支援事業(就労定着支援室) .....	22
10 指定一般相談支援事業(相談室) .....	23
11 指定特定相談支援事業(相談室) .....	24
12 指定居宅介護事業(ヘルパーステーションてくてく) .....	25

## はじめに

令和4年度も、コロナ対策で気が抜けない1年となった。

年末にはフレッシュとくまの職員間でコロナ感染が広がり、生活介護事業を3日間クローズした。幸いなことに、宿泊型訓練施設利用者には感染拡大しなかった。

また、グループホームでも3人の利用者の感染はあったが、素早くホテル療養へ移行できたためグループホーム内での感染は食い止められた。

今年度開始した「就労継続支援B(Ⅲ)型事業 ゆったりんどう」は、利用者に合った働き方とゆったり働ける場所を提供し、作業は地域企業や商店と連携を密にした内容になっている。また、送迎をすることもあり、徐々に利用者も増え、年度末には登録者23人となり、今後も利用者増が推測される。

ここ数年利用者減少が続いている事業については、障がい者を地域で支えることに取り組んでいる事業所として「ライフサポートりんどう」があることを地域に周知していく方法を検討していきたい。

また、公用車をリースに切り替えたことで、車検や定期点検がスムーズに受けられ、整備が整った公用車の使用や義務化された運転前のアルコールチェックを実施して、より一層安心、安全な環境の中で利用者の送迎や外出支援ができた。今後もより安全運転を心がけたい。

職員については、4月に国家資格のある職員1人の採用と3人の職員が法人の金銭補助を受け国家資格取得ができた。これからも定期的な職員採用や職員各々が資質向上を目指し、研修等への参加も推奨していく。

年度途中で2人の職員が産休、育休を明け復帰した。また、年度末に宿直、日直の職員2人が80才の非常勤職員定年で退職された。このように誰もが働き続けられる職場となりつつある。

第3次3ヶ年計画の2年目を終え、計画の1つであったグループホームの建設は、建築資材高騰や不足も心配されたが予定通り完了し、3月中旬に引き渡しとなった。

旧こまざわハウスの老朽化と一部消防基準を満たしていないために、建て替えを検討し、完成したところですが、2月の小火で被害が最小限だったとは言え、原因が壁の中の電気配線のショートであることを考えると、新こまざわハウスの完成は最善のタイミングとなった。

また、建て替えにあたり、ご寄付をお願いしたところ、法人関係者、関係機関、ご家族、後援会等の方々から沢山のご寄付を頂いた。お陰様で新こまざわハウスの家電等の設備に充てることができ、利用者に快適で安全な住空間を提供することができた。

本当にありがとうございました。

## 一 法人運営

### 1 会議等の開催状況

#### (1) 評議員会(2回開催)

R4. 定時 R4. 6. 20 令和3年度決算及び事業報告、令和4年度予算の補正、グループホーム建設契約手続き等

R5. 3月 R5. 3. 27 令和5年度事業計画及び資金収支予算、定款の一部改訂、職員の異動報告

#### (2) 理事会(3回開催)

第95回 R4. 6. 1 令和3年度決算及び事業報告、令和4年度予算の補正、グループホーム建設契約手続き等、令和4年度定時評議員会の招集

第96回 R4. 10. 19 法人の今後の業務執行、給与規程の改訂、理事長及び常務理事の職務執行状況報告

第97回 R5. 3. 15 令和5年度事業計画及び資金収支予算、定款の一部改訂、管理運営規程の改訂、給与規程の改訂、旅費規程の改訂、経理規程の改訂、重要な職員の選任解任、理事長及び常務理事の職務執行状況報告、令和5年3月評議員会の招集

#### (3) 監査

監事は、理事会並びに評議員会に出席し、理事の職務の執行状況を監査した。また、決算等の監査結果を報告した。

R4. 5. 24 令和3年度事業及び会計処理全般の監査実施

#### (4) 施設運営会議

- ・開催回数 46回(毎週水曜日午後定例開催)
- ・構成員 正副理事長、常務理事、施設長(管理者)、事務長

### 2 法人運営事務

#### (1) 規程等の制定、改訂

- ・定款の一部改訂 第97回理事会 令和5年3月評議員会
- ・管理運営規程の改訂 第97回理事会
- ・経理規程の改訂 第97回理事会
- ・給与規程の改訂 第96回理事会 第97回理事会
- ・旅費規程の改訂 第97回理事会

#### (2) 役員等の研修状況(主なもの)

- ・苦情対応システム研修会 県福祉サービス運営適正化委員会オンライン(11/16) 6人
- ・虐待防止・権利擁護研修会 市・県オンライン(7/21、12/21、2/10) 6人

(3) 登記関係

- ・資産総額の変更 (R4. 6. 24 登記申請)

(4) 協定・賃貸借契約等関係 (主なもの)

- ・長野市有財産賃貸借契約 ワークス西駐車場分 (契約期間 3 年) 更新  
契約日 H28. 4. 1(面積変更 R2. 12. 1) 当年度分 674, 510 円
- ・駐車場賃貸借契約 第 2 駐車場分 (自動更新) 4 台+プレハブ敷地 (2 台)  
契約日 H26. 4. 1 契約変更 H28. 6. 1 (一部返還)  
追加契約 2 台 R4. 6. 1~ 追加後 月 24, 000 円
- ・「いなだの家」建物賃貸借契約(20 年契約)  
契約日 H16. 4. 14 月 130, 000 円
- ・「のくとまーる」当初の建物賃貸借契約 (自動更新)  
契約日 H24. 3. 26 月 150, 000 円
- ・「のくとまーる」の定員増分及び 207 号(物置)の建物使用賃貸借契約 (自動更新)  
契約日 H24. 9. 25 月 140, 000 円
- ・「のくとまーるサテライト」 グランステージ長野 101 号 (契約期間 2 年)  
契約日 H30. 9. 14 R4. 9. 13 契約終了 月 33, 000 円
- ・「こまざわハウスサテライト」 F ドエル 204 号 (稲田) (契約期間 2 年)  
契約日 R2. 9. 1 R4. 8. 31 契約終了 月 30, 000 円
- ・「こまざわハウスサテライト」 イーストビレッジ B 棟 103 号(北堀) (契約期間 2 年)  
契約日 R2. 9. 1 R4. 8. 31 契約終了 月 35, 470 円
- ・「いなだの家サテライト」 レジデンス KURASAWA306 号(石渡) (契約期間 2 年)  
契約日 R2. 9. 1 月 30, 000 円
- ・職員勤怠管理システム関連 (フレッシュ本部・ワークス上駒・スローステップ)  
クロノクラウド等サービス 契約先 (株)ミロク情報サービス  
契約日 R2. 9. 9 (R5. 3~SS追加) 月 17, 545 円
- ・自動販売機設置協定 (本部・ワークス上駒に各 1 台設置)  
協定日 R3. 3. 5 協定先 ダイードリンコ(株)  
販売手数料= 1 月の総売り上げの 18%
- ・カラオケ機材賃借料(フレッシュとくま) 月 21,770 円 . . . 第一興商
- ・スマートエコシステムリース料(本部建物・ワークス上駒) 月 13,413 円  
. . . オリックス
- ・福祉大臣ソフト保守料(2023.3.1~2024.2.29) 年 110,000 円 . . . リコージャパン
- ・ワイズマン給付費ソフトリース料 月 51,920 円 . . . リコージャパン
- ・自動車リース契約 . . . カーソリューションズ(株)  
R3.9/17~ 60 か月 日産セレナ フレッシュとくま等送迎用…新車リース 月 51,150 円
- ・自動車リース契約 . . . 八十二オートリース(株)

R4.1/28～	60か月	タント	グループホーム	…新車リース	月 27,830円
R4.1/28～	60か月	タント	相談室(特定相談)	…新車リース	月 27,830円
R4.2/1～	36か月	ライフ	フレッシュ(宿泊)	…リースバック	月 10,120円
R4.2/1～	35か月	ヴィッツ	フレッシュ(宿泊)	…リースバック	月 13,970円
R4.2/1～	72か月	ハイゼットカーゴ	ワークス(継続B)	…新車リース	月 24,420円
R4.2/1～	41か月	サクシード	ワークス(継続B)	…リースバック	月 19,140円
R4.2/1～	51か月	アルト	ワークス(継続B)	…リースバック	月 11,220円
R4.2/1～	49か月	アルト	てくてく(居宅)	…リースバック	月 11,440円

(5) 業務委託等の契約

- ・ 廃棄物処理委託定期 (宝資源開発株) ) H24.6.11 (契約)  
 H31.2.1 (覚書)  
 R4.4.1 (改訂) 基本 月 15,147円
- ・ 清掃業務委託 (フレッシュ個室エアコンクリーニング) (株サニクリーン甲信越)  
 13台 7月実施 286,000円
- ・ 清掃業務委託(フレッシュとくま建物清掃トイレ、風呂、窓等)・・・直富商事  
 9月実施 268,246円
- ・ 小型エレベーターメンテナンス ワークス上駒(ハナリックホームエレベーター株)  
 H23.4.1 (自動更新) 年 111,100円
- ・ 荷物昇降機保守点検 (株マリフトコーポレーション)H13.2.1 (自動更新) 年 61,600円
- ・ 自動ドア保守管理業務委託 (本部・ワークス上駒)  
 (株長野パゴ) H30.6.1(自動更新) 年 158,400円
- ・ 受水槽清掃保守点検 (株三京) H25.9.1 (自動更新) 年 28,710円
- ・ 警備委託 夜間防災支援体制 (新日本警備保障株)  
 フレッシュとくま(本館) H26.2.10 (契約期間5年間) 月 9,900円  
 こまざわハウス,いなだの家 H26.2.15 (契約期間5年間) 月 15,070円  
 のくとまーる H26.2.10 (契約期間5年間) 月 10,780円
- ・ 消防用設備保守点検  
 スローステップ分 (ホーチキ株) H23.4.1(自動更新) 年 48,400円  
 本館分 (ホーチキ株) H28.4.1(自動更新) 年 256,674円  
 ワークス上駒分 (株ナショナル防災) H23.4.1(自動更新) 年 49,500円  
 こまざわハウス (新日本警備保障株) H26.3.1(自動更新) 年 22,836円  
 いなだの家 (新日本警備保障株) H26.3.1(自動更新) 年 37,708円
- 断 ・ ホームページホスティングサービス (株いとう R4.2.1～ 月 3,300円
- ・ ホームページドメイン管理料 (株いとう 年 7,700円
- ・ ホームページ更新指導料 (株いとう 1回 16,500円
- ・ コピー機保守 本部 (株葛友)

- H29.9.14 (5年間) 白黒1枚2.1円、カラー14円
- ・コピー機保守 ワークス上駒 (株) 葛友 H25.11.15(5年間) 1セット 45,100円/5千枚
- ・コピー機保守 スローステップ (株) 葛友  
R4.4.22 (5年間) 白黒1枚2.8円
- ・税理士会計指導料 (長野東会計・小林税理士) 月 41,800円
- ・健康診断委託 (財) 全日本労働福祉協会 H13.1.17 (自動更新)  
(R4年度実績) 32人 317,727円

### 3 施設及び設備整備について(新規)

#### (1) 固定資産購入等

##### (取得)

##### (基本財産 建物)

- ・新こまざわハウス 取得年月日 R5.3.20 取得価格 72,832,300円  
(うち国庫補助金等の額 26,100,000円)

##### (器具備品)

- |                     |     |         |            |
|---------------------|-----|---------|------------|
| ・コピー機 (スローステップ)     | 1台  | R4.5.10 | 440,000円   |
| ・パソコン (フレッシュ4F事務)   | 1台  | R4.5.11 | 112,800円   |
| ・パソコン (フレッシュ介護)     | 1台  | R4.5.11 | 112,800円   |
| ・パソコン (ワークス上駒事務)    | 1台  | R5.1.25 | 147,800円   |
| ・タイムレコーダー (スローステップ) | 1台  | R5.3.20 | 205,700円   |
| ・エアコン (GHこまざわハウス)   | 1台  | R4.8.10 | 148,000円   |
| ・エアコン (GH新こまざわハウス)  | 10台 | R5.3.31 | 1,465,365円 |

### 4 資金の状況について(R5.3.31)

- |                |              |
|----------------|--------------|
| ・寄附金収入         | 11,693,000円  |
| ・当年度資金収支差額     | 12,180,382円  |
| ・当年度施設整備等資金積立額 | 366,000円     |
| ・年度末施設整備等積立金総額 | 5,000,000円   |
| ・年度末純資産総額      | 600,098,261円 |
| ・年度末借入金残額      | 11,718,000円  |

### 5 人事管理について

- (1) 職員の資質の向上と公正な人事管理を目的とした人事管理システムにより次のとおり実施した。

#### ア 人事考課 (業務管理) の実施

前期（４月～９月）業務の自己評価と施設長による評価を行った。

(2) 雇用状況について(R4. 4～R5. 3)

- ・採用 正職員 0 人、嘱託職員 1 人、非常勤職員 1 人
- ・退職 正職員 2 人、嘱託職員 0 人、非常勤職員 4 人
- ・継続 嘱託職員 1 人、非常勤職員 1 6 人
- ・R5. 3. 31 在籍職員数（3月末退職者含む） 4 3 人  
正職員 2 5 人、嘱託職員 2 人、非常勤職員 1 7 人(内当直職員 5 人)

6 職員研修について

職員研修実施要綱（基本計画）に基づき、「令和 4 年度研修計画」を策定して計画的な職員研修を行った。なお、コロナ禍で対面からオンライン研修に切替わり減少した。

(1) 内部研修

- ・各事業所内での O J T による研修の実施（新規職員等）（年間）
- ・朝の職員連絡会議で内容報告（毎日）
- ・各事業所単位ミーティングで伝達研修（週 1 回）
- ・月例職員会議での職員周知のための周知伝達等（月 1 回）  
（公用車管理・保険、BCP（業務継続計画）、コロナ検査キット使用方法、人権啓発、安全運転管理者講習、ヒヤリハット事例、市の集団指導、医療観察制度、虐待（身体拘束等適正化のための指針）防止等を周知伝達した。）

(2) 外部での一般研修受講

- ・受講した研修等の項目と延べ日数 33 項目・57 日
- ・研修等受講者延べ数 50 人
- ・一人当たり平均研修日数 1. 14 日
- ・33 項目研修開催地（長野市内 17、長野市以外県内 1、県外 0、オンライン 15)

7 施設及び事業経営について

(1) 施設等の経営状況

- ①指定生活介護事業（フレッシュとくま） 定員 17 人  
日平均利用者数 16. 6 人
- ②指定短期入所事業（フレッシュとくま） 定員 3 人  
\* 自立体験事業・私的利用を含む 日平均利用者数 0. 8 人
- ③指定自立訓練（宿泊型）事業（フレッシュとくま）  
・宿泊 定員 17 人 日平均利用者数 8. 8 人
- ④指定自立訓練（生活訓練）事業（フレッシュとくま）  
・日中 定員 10 人 日平均利用者数 5. 9 人
- ⑤指定共同生活援助事業（グループホーム）定員 25 人



	日平均利用者数	17.7人
⑥指定自立生活援助事業（自立生活支援室）定員 なし	月平均登録実人数	4.3人
⑦指定就労継続支援 B（Ⅰ）型事業（ワークス上駒）定員 34人	日平均利用者数	28.1人
⑧指定就労継続支援 B（Ⅲ）型事業（ゆったりらんど）定員 10人	日平均利用者数	9.8人
⑨指定就労定着支援事業（就労定着支援室）定員 なし	月平均登録実人数	3.4人
⑩指定一般相談支援事業（相談室）	地域移行支援利用延べ月数	7月
	地域定着支援利用延べ月数	65月
⑪指定特定相談支援事業（相談室）	サービス等利用支援	230件
	継続サービス等利用支援	518件
⑫指定居宅介護・重度訪問介護事業（ヘルパーステーションてくてく）	定員 なし	月平均登録実人数 19.0人

## (2) 事故等の状況

- ・利用者の保険請求分 実績 なし
- ・施設の火災（GHこまざわハウスのぼや火災 R5.2.12（日）発生）  
洗面台裏付近の漏電火災➡企業財産保険 保険金（449,011円）

## (3) 苦情解決状況（第三者委員・ヒヤリハット事例報告）

- ・苦情受付実績 なし

## (4) 防災・安全対策

- ・地震台風等災害のための消火・避難訓練  
フレッシュとくま 12回、ワークス上駒 2回、スローステップ 2回、  
グループホーム（いなだの家・こまざわハウス・のくとまーる 各2回）
- ・消火設備等の点検 2回実施（専門業者に委託）
- ・感染症対策  
新型コロナ感染症対策として、換気、利用者及び職員等の検温記録、3密回避、マスク、手洗い、消毒等の徹底、施設内の感染防止として非接触型手指消毒機等活用した。  
また、県から配付の抗原定性検査キットを活用し、利用者の入所時確認、職員の自覚症状時等に使用し、コロナ感染予防を行った。

## 8 第3次3ヵ年計画の進捗状況について

### （第3章 計画の内容）

#### (1) グループホームの建設について

- ・令和5年3月新こまざわハウスが予定通り完成し、令和5年4月開所に向けて準備をした。

(2) 利用者家族の高齢化社会的孤立防止について

- ・今年度、家族と利用者対象に将来的な生活の仕方や場所の参考になるように、利用者体験発表と支援職員から取り組み方の発表を2回行った。

これからも研修会開催の継続を図るが、広く地域に向けての社会的孤立解消の取り組みを提示していく。

(3) 生産活動の実施に当たり地域や地域住民との協働の取り組みについて

- ・Instagramフォロワー数は、100人となった。
- ・赤飯受注は、550パック、工賃収益は、119,500円となった。
- ・生産活動で連携している企業、商店をホームページで紹介し、連携強化を図った。

(4) その他

- ・事業継続計画（BCP）の感染症マニュアルを作成しコロナ感染予防対応を図った。  
また、引き続き、災害時の事業継続計画（BCP）の作成を計画中

9 その他

- ・会報誌（No64～No65）の発行
- ・年報（令和3年度版）の発行
- ・地域、行政、関係団体、地元組織等との連携協力を努めた。（コロナの影響により減少）
- ・長野市障害者自立支援協議会（長野市障害ふくしネット）への参加協力をした。
- ・視察や見学・学生実習・職員研修生等を受け入れた。（コロナの影響により減少）  
長野大学1名、高崎福祉医療カレッジ2名実習生  
その他、長野看護専門学校・須坂看護専門学校・清泉女学院大学看護学部より複数名実習受け入れた。

## 二 各サービス事業の実績

### 1 指定生活介護事業（定員 17 人）（フレッシュとくま）

一日の平均利用者数は 16.6 人でした。

体操やストレッチで健康維持の支援を行ったり、血圧や体重測定を行うことで体調不良を早期発見できるようにした。軽作業も取り入れ、活動にメリハリをつけた。コロナ過でも室内での夏祭りや、分散しての外出や外食を行い、利用者が楽しめる企画を実行できた。

#### (1) 重点事項

- ア 健康維持と体調管理をして、安定した地域生活ができるよう支援
- イ 生活の充実とやりがいを見出す支援

#### (2) 取り組み

- ア 体調維持
  - (ア) 看護職員による健康チェック、健康体操
  - (イ) 入浴、洗濯、食事の支援
  - (ウ) 軽作業の生産活動
- イ 余暇支援
  - (ア) 外出や外食、季節行事の企画・実行
  - (イ) 室内でのゲームや卓球・カラオケ等を提供

#### (3) 実績

ア 年度比較 (人)

	延利用者数	1日平均利用者数	延契約者数	解約者数
令和3年度	4,437	17.9	46	8
令和4年度	4,012	16.6	45	7
比較	△425	△1.3	△1	△1

イ 月別利用実績

令和4年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均・合計
契約者数/月	40	42	44	43	43	39	39	39	40	40	39	38	40.5人
開所日数	20	19	22	20	21	20	20	20	20	19	19	22	242日
延利用者数	376	346	417	360	361	379	377	358	390	360	338	375	4,012人
平均利用者数/日	16.4	17.9	17.6	16.2	16.5	16.4	16.1	16.1	16.8	16.1	16.2	16.5	16.6人

(4) 職員体制 (R5.3.31 現在)

管理者 サービス管理責任者 生活支援員 嘱託医 看護職員

まとめと課題

- ・新規の契約者が7人だった。ほとんどの人が継続利用となっている。
- ・看護師による健康相談や、緊急時の対応がスムーズにできた。
- ・軽作業に取り組むことで、活動にメリハリがついた。
- ・入浴支援等で清潔保持がより一層できるようになった。
- ・欠席者が毎日数人あることを考慮して定員を若干オーバーした受入体制を整えているが、通所日には安定して通えるようにしたい。
- ・利用者像として、清潔の保持が難しい人や、内科疾患への対応等、高齢者施設での支援に近い対応が求められてきている。
- ・日頃の体調を観察し、必要あれば医療機関へ情報提供や家族への情報提供に努めている。今後もさらに利用者への健康観察が重要になってくると思われる。
- ・継続利用者の欠席を減らし、さらに利用日を増やせるよう支援し、安定した経営に繋げる。
- ・若い世代の利用者に向けては介護だけに留まらず、次のステージへの移行につながるべく、働きかけを行う必要がある。
- ・障害特性に応じた支援を心がける。

資料 (令和5年3月31日現在)

年代別数 (人)

性別 数	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代以上
男 22	0	1	3	7	11
女 16	0	1	2	4	9
計 38	0	2	5	11	20

障害支援区分別数 (人)

性別 数	区分2	区分3	区分4
男 22	13	7	2
女 16	9	7	0
計 38	22	14	2

## 2 指定短期入所事業（定員 3 人）（フレッシュとくま）

（地域移行・自立生活訓練事業）

一日の平均利用者数は 0.8 人だった。

宿泊型訓練の体験利用だけでなく、レスパイト目的の利用者や定期利用者も受け入れた。

### （1）重点事項

- ア 緊急利用も受け入れられる体制
- イ 個々のニーズに対応
- ウ 行政、医療機関、長野市障害ふくしネット等との連携

### （2）取り組み

- ア さまざまな利用目的に対応し受入れをした。
- イ 家族、ケアプランナー、病院のケースワーカーとの連携をした。
- ウ 病院からの地域移行の体験利用で受入れをした。

### （3）実績

ア 年度比較 (人)

	延利用者数	1日平均利用者数	実利用者数
令和3年度	284	0.8	20
令和4年度	271	0.8	22
比較	△13	0	2

### イ 月別利用実績

令和4年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均・合計
開所日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365日
延利用者数	12	26	24	20	17	24	18	9	14	27	52	28	271人
平均利用者数/日	0.4	0.9	0.8	0.7	0.6	0.8	0.6	0.3	0.5	0.9	1.9	1.0	0.8人

### （4）職員体制（R5.3.31 現在）

管理者                  支援員

### まとめと課題

- ・定期利用者に対して、各々の利用目的に合った支援ができた。
- ・体験利用者については入所を視野に入れた形で、活動の予定を立てた。
- ・コロナ感染対策なのか、病院からの地域移行の依頼が少なかった。

### 3 指定自立訓練（宿泊型）事業（定員17人）（フレッシュとくま）

一日の平均利用者数は8.8人でした。

利用者のうち7人が退所した（アパートが2人、グループホームが3人、入院が2人）また、新たに自宅から1人、病院から3人が入所した。

#### (1) 重点事項

ア 利用期間の長短にとらわれない考え方のもとで、個人に合った生活スタイルで地域での新たな生活への展開の検討

イ 相談支援事業所、医療機関、行政等との連携による利用者確保

#### (2) 取り組み

ア 個別支援計画に基づいて質の高い支援

(ア) 3ヶ月ごとの振り返りを行い、要望等を聞き取りニーズに反映した。

(イ) その人にあった地域生活ができるように支援した。

イ 利用者の確保

(ア) 年間を通して医療機関、行政等との情報交換や協力をお願いした。

(イ) 医療機関に事業所のパンフレットを送付し、利用者確保に努めた。

(ウ) ホームページでの情報発信をした。

ウ 安全で衛生的な環境への配慮

(ア) 新型コロナウイルス感染予防の徹底のため、食事用テーブルにパーテーションを設けた。

(イ) 毎日2回の検温を実施した。

(ウ) ワクチン接種を促し、医療機関へ接種の予約をし、同行して接種をしてもらった。

(エ) 換気・マスク着用の徹底をした。

(オ) 防災設備の定期的な点検、維持を行った。

(カ) 防災訓練を毎月実施した。

(キ) 生活の場にふさわしい快適な環境を提供した。

#### (3) 実績

ア 年度比較

(人)

	延利用者数	1日平均利用者数	延契約者数	解約者数
令和3年度	4,005	11.0	16	6
令和4年度	3,211	8.8	14	7
比較	△794	△2.2	△2	△1

#### イ 月別利用実績

令和4年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均・合計
契約者数/月	10	10	9	9	10	8	8	9	9	9	9	7	8.9人
開所日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365日
延利用者数	296	297	292	247	315	259	248	262	247	245	239	264	3,211人
平均利用者数/日	9.9	9.6	9.8	8.0	10.2	8.7	8.0	8.8	8.0	8.0	8.6	8.6	8.8人

#### (4) 職員体制 (R5.3.31)

管理者 サービス管理責任者 生活支援員 地域移行支援員 看護職員 調理員  
宿直者

#### まとめと課題

- ・2人がライフサポートりんどうのグループホームに転居した。2人とも2年間の利用期間を全うした。
- ・きめ細かく関係者を招集して、成果や課題を共有して、退所後の生活に繋げていった。
- ・R3年度以上に平均利用者数が減っている。病院からの希望者が大きく減少している状況。ある程度地域移行が落ち着いたという事なのか検証が必要となる。これほどに利用者が減少してくると、宿泊型自立訓練の継続を今後もしていくのか、別事業への移行などもR5年度は検討が必要である。

## 4 指定自立訓練（生活訓練）事業（定員10人）（フレッシュとくま）

年間延利用者数は、12人でした。2人が再入院、1人が作業所へ通所につき解約した。長期入院者が地域生活に移行し安定した生活を継続する難しさを感じた。新規契約者は5人で、一日の平均利用者数は5.9人でした。利用者各々の今後の生活に必要な事を支援することで、自信に繋がった。

#### (1) 重点事項

- ア その人らしい生活ができるよう、自主性・自発性の尊重
- イ 利用者の確保による経営の安定

#### (2) 取り組み

- ア 個別支援計画に基づいて質の高い支援
  - (ア) 3ヶ月ごとに振り返りを行い、要望等を聞き取りニーズに反映した。
  - (イ) 個人の目標がぶれないよう、今やるべきこと・目指すべきことを利用者と常に確認した。
- イ 利用者確保する

(ア) 年間を通し医療機関、行政等との情報交換や協力を依頼した。

(イ) ホームページでの情報発信をした。

(ウ) 今後の生活に必要なスキルが身に付くよう支援した。

### (3) 実績

#### ア 年度比較

(人)

	延利用者数	1日平均利用者数	延契約者数	解約者数
令和3年度	1,711	7.1	17	10
令和4年度	1,409	5.9	10	3
比較	△302	△1.2	△7	△7

#### イ 月別利用実績

令和4年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均・合計
契約者数/月	7	8	8	8	9	8	8	9	9	9	9	7	8.2人
開所日数	20	19	22	20	20	20	20	20	20	19	19	22	241日
延利用者数	112	106	105	80	134	128	121	129	115	112	132	135	1,409人
平均利用者数/日	5.6	5.6	4.8	4.0	6.7	6.4	6.1	6.5	5.8	5.9	6.9	6.1	5.9人

### (4) 職員体制 (R5.3.31 現在)

管理者、サービス管理責任者、生活支援員、訪問支援員

#### まとめと課題

- ・個別支援計画に基づき、各自の目標がぶれないよう確認しながら目標達成に繋げた。
- ・各々の訓練に対するモチベーションを維持するため、社会資源の利用方法や外出等のお楽しみもプログラムに組み込みながら支援した。
- ・長期入院からの利用者が地域生活に慣れ、安定した状態を維持する難しさを感じた。
- ・宿泊訓練と併用している利用者以外の希望者が少ない。
- ・障がい者特性に応じた対応を心がけていきたい。

資料 (令和5年3月31日現在)

#### 障害福祉サービス支給市町村

(人)

性別 数	長野市	千曲市	須坂市	飯綱町	中野市	木島平村
男 9	5	0	2	0	1	1
女 3	1	1	0	1	0	0
計 12	6	1	2	1	1	1



## 5 指定共同生活援助事業（定員25人）（グループホーム）

指定共同生活援助事業（グループホーム）は以前に比べ、個別の支援が必要な人が増えてきている。

栄養管理や金銭管理に加え服薬管理や生活支援など多様な支援が求められた。社協や訪問看護等の事業所と連携を図りながら支援を行った。また、入居者の高齢化が進みつつあり、保証人の問題も出始めている。

今年度グループホームからの退所者はサテライト終了者を含め6人で、内4人が地域での一人暮らしに移行した。

新規利用者は3人で、うちフレッシュとくま（宿泊型訓練事業）からの入居者は1人であった。

世話人体制は利用者5人に対して世話人1人とし、看護師の配置により個別の体調管理を強化した。また、前年に引き続きワクチン接種の対応や食事を居室で取るなど感染対策に努めたが、3人がコロナに感染してしまい、ホテル療養を利用した。

### （1）重点事項

- ア 居住の場の提供と日常生活における必要な支援
- イ グループホームから次の生活の場への移行のための取組・援助
- ウ 退所後の安定した生活維持のための支援

### （2）取り組み

- ア 日常生活について
  - （ア）調理、掃除、買い物、金銭管理、服薬確認等を補助した。
  - （イ）家族、日中活動先等の連絡調整を行った。
  - （ウ）対人関係、日常生活の不安や課題へ相談支援を行った。
- イ 地区交流事業について
  - （ア）地区の清掃事業に参加した（河川・側溝・公園・神社等）。
  - （イ）ゴミステーションの立ち合いを行った。
- ウ 日常支援について
  - （ア）日中世話人が住居を巡回して在宅の利用者の支援を行った。
  - （イ）午後3時頃からは、夕食準備の支援や相談等利用者の支援を行った。
  - （ウ）土、日、祝日も世話人を配置し食事の提供を行った。
  - （エ）看護師の定期訪問により健康管理に努めた。

### （3）実績

- ア 年度比較（1日平均利用者数）

令和3年	21.6人	令和4年	17.7人
------	-------	------	-------
- イ 新規利用者 3人（フレッシュとくま 1人・家庭 2人）

ウ 退所者 6人（一人暮らし4人他法人のグループホーム1人、自宅1人）

エ 利用者数 29人／定員（体験含む）22人（R5.3.31現在）

（4）職員体制（R5.3.31現在）

管理者 サービス管理責任者 世話人 支援員 看護師

まとめと課題

- ・入居者一人ひとりの生活力（ADL）に差があり画一的な支援では足りず、個別の対応を求められた。
- ・生活の質（QOL）を高める為、返金をなくし乾燥機等を購入し生活環境を整えた。
- ・令和5年4月開設に向け、新しいグループホームの受け入れ予定者の調整を図った。
- ・利用者の方向性に合わせて各住居での提供するサービスの内容を変えた。

資料（令和5年3月31日現在）

年代別数 (人)

性別 数	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代以上
男 12	1	2	5	1	3
女 7	3	0	3	1	0
計 19	4	2	8	2	3

6 指定自立生活援助事業（定員なし）（自立生活支援室）

今年度は8人に対して日常生活の見守りや金銭管理等、安定した一人暮らしの定着に向け支援を実施した。金銭管理についてはいずれも社協の日常生活自立支援事業に繋げるべく、手続きを進め3人が、支援終了時社協の事業に移行した。また、生活面については居宅介護事業等必要なサービスを導入し地域での生活を継続している。

（1）重点事項

- ・生活力・社会適応力を高め、安心して地域で生活できるような支援
- ・利用期間内にサービスの調整等を実施し、終了後の安定した生活の構築
- ・地域生活において生じる課題の解決に向け、取り組みを進め安心して生活が送れるような支援

（2）取り組み

ア 状況確認について

（ア）定期的な訪問・面接等により本人の生活状況を把握した。

(イ) 必要に応じ銀行や医療機関等へ同行し手続等を一緒に行った。

イ 相談について

(ア) 訪問及び面接時に困っていることや不安に思っていること等相談を受け、解決に向けて一緒に取り組んだ。

(イ) 利用終了時を考え必要なサービスの情報提供や利用に向けての支援をした。

ウ 関係機関との連絡調整

(ア) プランナーをはじめ、日中の利用施設など関係機関との連絡調整を行った。

(イ) 課題等の解決に向けての話し合いを開いた。

(3) 実績

ア 年度比較

(人)

	延べ契約者数	新規利用者数	延長者数	解約者数
令和3年度	7	3	2	2
令和4年度	8	3	2	5
比較	1	0	0	3

イ 月別利用実績

令和4年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均/合計
開所日数	20	19	22	20	20	20	20	20	20	19	19	22	241日
延べ支援回数	20	25	23	25	14	25	22	21	15	14	11	12	227回
登録実人数/月	5	5	5	5	4	5	5	5	3	3	3	3	4.3人
平均利用者数/日	1.0	1.3	1.0	1.3	0.7	1.3	1.1	1.1	0.8	0.7	0.6	0.6	0.9人

(4) 職員体制(令和5.3.31現在)

管理者 サービス管理責任者 支援員

まとめと課題

- ・社協の日常生活自立支援事業は利用までに時間を要するので、早めに手続きを進めた。
- ・利用者側の必要性和支援者側の必要性に温度差があった。
- ・利用開始時は手続等が多く、支援回数が多くなった。
- ・昨年度から延長しての利用者が2人延長を終了された。
- ・期間中に習得できなかった課題について、サービス提供の終了後何処に繋いでいくのかを考える必要があった。
- ・利用者の確保をどのように進めていくのか検討していく必要がある。

## 7 指定就労継続支援B（I）型事業（定員34人）（ワークス上駒）

屋内作業の依頼が少しずつ増えてきたため、一定の作業量の確保ができた。

屋外作業を多く取り入れたことで、外作業の仕事の依頼が増え収入の安定にもつながった。

自主製品のお菓子、赤飯は地域の活動として毎年決まった注文を頂くことができています。

利用者の適性を見ながら一人一人が作業にやりがいを持てるよう支援した。また、作業の効率化と作業内容や作業環境の見直し及び改善を行った。

1日平均利用者数は28.1人だった。

### （1）重点事項

- ア 利用者個々の自己到達目標に向けての支援
- イ 目標工賃達成指導員を中心に、工賃アップと安定した作業量の確保
- ウ 作業能力の向上と労働意欲の育成
- エ 長期利用者のニーズの確認と、安定した利用に向けての支援
- オ 新型コロナウイルス感染予防の徹底

### （2）取り組み

- ア 6か月ごとの個別支援計画をもとに、個々のニーズの抽出を図りながらその人に合った支援ができるよう努めた。
- イ 利用者の体調の変化を職員間で共有しながら、安心感がある安定した作業が継続できるような心がけた。また、夏場に猛暑が続くことから対策を検討し取り入れた。
- ウ 年間を通して安定した作業量が確保できるよう、取引企業の開拓、仕事内容の交渉などを行った。
- エ 年間を通して、自主製品（お菓子・赤飯等）の研究や開発を行った。
- オ 地域からの依頼で自主製品（マドレーヌ・アップルパイ）の販売を行った。
- カ 利用者の楽しみやリフレッシュとなるよう、ワークス内で行事を実施した（カンマッセの食事・食事会・クリスマス会等）。
- キ 新型コロナウイルス感染予防に対する意識が持続するよう常に注意を促しながら、1日3回のアルコール消毒や換気の徹底をした。

### （3）実績

ア 年度比較

(人)

	延利用者数	1日平均利用者数	延契約者数	解約者数
令和3年度	7,568	31.2	56	5
令和4年度	6,828	28.1	41	4
比較	△740	△3.1	△15	△1

イ 月別利用実績

令和4年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均・合計
日数	20	19	22	20	22	20	20	20	20	19	19	22	243日
延利用者数	584	568	626	561	543	551	563	574	573	513	531	641	6,828人
実利用者数/月	39	39	38	37	37	37	36	36	37	36	37	39	37.3人
平均利用者数/日	29.2	29.9	28.5	28.1	24.7	27.6	28.2	28.7	28.7	27.0	28.0	29.2	28.1人
平均利用日数/人	15.0	14.6	14.5	15.2	14.7	14.9	15.6	15.9	15.5	14.3	14.4	16.4	15.5日

(4) 職員体制 (R5.3.31 現在)

管理者 サービス管理責任者 職業指導員  
生活支援員 目標工賃達成指導員 調理員

まとめと課題

- ・体調不良や家庭の事情による退所者が4名だったのに対し、新規利用者が2名と少なかった。就労支援事業に多くの企業が参入しているなか、今後事業所としての特色を出していくことが課題である。利用者にとっての魅力あるB型事業所について研究し目指していくことが必要となってくる。
- ・就職を目指す利用者に対しては、個別の支援が必要となっている。地域で職場見学や職場体験の受け入れ可能な企業を開拓し、目標に沿った継続した支援ができるよう進めていく。
- ・今後も、仕事を通して顔の見える事業所となるよう、ボランティア等も取り入れながら地域に働きかけをしていく。

資料 (令和5年3月31日現在)

年代別数

(人)

	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代
男 27	0	5	3	7	9	3
女 14	0	2	1	3	4	4
計 41	0	7	4	10	13	7

月別工賃支給状況

(小数点以下切り捨て)

月	支給人員 (人)	工賃支給金額 (円)	
		月平均額	月最高額
4	38	15,924	41,780
5	38	16,408	49,500
6	37	18,680	57,250
7・賞与	38	35,476	94,246
8	37	16,570	40,050

9	36	17,940	56,440
10	36	17,666	52,810
11・賞与	37	47,081	121,029
12	36	16,010	42,510
1	36	12,489	29,790
2	36	12,996	34,340
3・賞与	39	49,596	138,938
平均月額		(R4年度) 23,272円	(R3年度平均) 17,776円

## 8 指定就労継続支援B（Ⅲ）型事業（定員10人）（ゆったりんどう）

新規事業として4月に開設した。

定員10人で1日平均利用者数は9.8人だった。

就労支援B（Ⅲ）型という事で、高い工賃は求められていないものの、室内作業が中心で短時間作業希望者が多い中、最低限月額3,000円以上の工賃確保と利用者ができる作業の受注はたいへんだった。

送迎希望者には、送迎を行うことで利用回数が増え、初めは3～4人の送迎であったが、徐々に増えている。年度末には、23人の契約者数となった。

### （1）重点事項

- ア 利用者の多様な働く意欲に応じて働く場の提供
- イ 地域と連携した生産活動に取り組む

### （2）取り組み

- ア 個別支援計画に基づいて質の高い支援
  - （ア）6か月ごとに振り返りを行い、個々のニーズに沿った支援を行った。
  - （イ）利用者の労働スキルを考慮した作業内容の提供を行った。
- イ 新規事業として利用者を確保する
  - （ア）働くことに消極的な利用者にも、生きがいややりがいを感じられるよう支援した。
  - （イ）見学や問い合わせが利用に結び付くように働きかけた。
- ウ 生活を充実させる支援
  - （ア）社会資源等活用して、外出等行った。

(イ) 単独では行けないお店等での食事や買い物等行った。

(3) 実績

ア 年度比較

(人)

	延利用者数	1日平均利用者数	延契約者数	解約者数
令和3年度				
令和4年度	2,345	9.8	224	4
比較				

イ 月別利用実績

令和4年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均・合計
日数	20	19	22	20	20	20	20	20	20	19	19	22	241日
延利用者数	134	134	168	192	188	297	198	209	199	183	187	256	2,345人
実利用者数/月	13	14	16	18	17	20	20	20	20	21	22	23	18.7人
平均利用者数/日	6.7	7.1	7.7	9.6	9.4	14.9	9.9	10.5	10.0	9.7	9.9	11.7	9.8人

(4) 職員体制 (R5.3.31 現在)

管理者 サービス管理責任者 職業指導員 生活支援員

まとめと課題

- ・新規事業で平均利用者数の目標を定員の10人と考えていたが、9.8人とわずかに足りなかった。
- ・作業量や利用者の作業時間も予定が立たなかったが、目標工賃最低基準の3,000円を上回り、平均工賃が3,696円となった。
- ・送迎希望者が徐々に増え、年度末には1日6～9人程の送迎を行った。
- ・契約者数が増えることで、それに見合った作業量を確保しなくてはならない。
- ・1日の利用者数が定員の10人を超える日が多くなってきているため、今後定員変更を考えていく。

資料 (令和5年3月31日現在)

年代別数

(人)

	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳以上
男 13	1	2	3	2	2	3
女 10	0	1	4	2	3	0
計 23	1	3	7	4	5	3

月別工賃支給状況

月	支給人員（人）	工賃支給金額（円）	
		月平均額	月最高額
4	14	2,417	6,164
5	15	2,971	7,020
6	17	3,121	8,780
7	19	2,771	6,943
8	18	6,440	18,190
9	19	2,872	7,333
10	19	3,934	9,892
11	19	3,770	9,225
12	20	2,764	7,080
1	17	3,562	8,112
2・賞与	20	6,470	17,348
3	23	3,396	8,604
平均月額		(R4年度) 3,696円	

9 指定就労定着支援事業（定員なし）（ワークス上駒 就労定着支援室）

令和4年度は5人の方に対して、就労継続の為の支援を実施した。

(1) 重点事項

- ア 就労定着支援計画に基づいたサービスの提供
- イ 月1回以上の対面による面接等の実施
- ウ 月1回以上の企業訪問
- エ 企業・関係機関・家族等との連絡調整

(2) 取り組み

- ア 目標を決めて個別支援計画に反映した。
- イ 月に1度の面接日を決めて実施し、家や職場での様子を聴いた。
- ウ 生活面での聞き取り等で通院の勧めや生活費について改善を促した。
- エ 企業を訪問して、職場での様子から困っていること等を伝えた。
- オ 職場環境がより働きやすくなるよう心掛けた。



カ チャレンジ雇用修了者に対して、次の就職先を見つけるべく、求職活動をした。

(3) 実績

ア 年度比較 (人)

	契約者数	新規利用者数	解約者数
令和3年度	4	1	0
令和4年度	5	0	3
比較	1	△1	3

イ 月別利用実績

令和4年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均・合計
開所日数	20	19	22	20	20	20	20	20	20	19	19	21	240日
延べ支援回数	12	10	9	9	12	8	5	7	6	6	5	4	93回
登録実人数/月	5	5	4	4	4	4	3	3	3	2	2	3	3.4人

(4) 職員体制 (R5.3.31 現在)

管理者 サービス管理責任者 就労定着支援員 職場適応援助者

まとめと課題

- ・ 職場訪問、面談等で職場でのコミュニケーションの取り方や生活面への助言を行い、必要に応じて関係機関と連携した。
- ・ 県のチャレンジ雇用（3年間）修了者を次のステップに繋いでいく為、求職活動を一緒に行ない、次の企業に就労することができた。

10 指定一般相談支援事業（地域移行支援事業・地域定着支援事業）（相談室）

コロナウイルス感染のため、地域移行支援は今年度も支援が難しい状況が続いた。令和4年11月から支援を開始したケースでは感染状況をみて、事業所見学はできたが、体験利用ができない状況で、年度をまたぎ継続支援になっている。

今後もコロナ感染状況を鑑みての支援が予想される。

地域定着支援では定期的な状況確認が中心で、緊急連絡などはなかった。

(1) 重点事項

ア 精神科病院、市町村等と連携しての地域移行支援の実施

- イ 相談者主体の地域移行支援の実施と専門的力量を持った職員の育成強化
- ウ 関係機関との情報共有、連携強化

(2) 取り組み

- ア 地域移行支援（地域移行支援計画の作成等、地域生活移行のための相談、外出同行、障害福祉サービスの体験利用、体験的な宿泊支援）
- イ 地域定着支援（地域定着支援台帳作成、連絡体制の確保、緊急時の状況把握・対応等）
- ウ 連携による地域生活支援（関係機関との連携強化）

(3) 実績

ア 地域移行支援

	利用実人数	利用延べ月数	継続支援者数
令和3年度	4人	26か月	1人
令和4年度	2人	7か月	1人
比較	△2	△19	

イ 地域定着支援

	利用実人数	利用延べ月数	緊急時支援
令和3年度	5人	60か月	0回
令和4年度	6人	65か月	0回
比較	1	5	

(4) 職員体制（R5.3.31 現在）

管理者 相談支援専門員、地域移行・定着支援員

まとめと課題

- ・地域移行支援では、1人が支援継続中となっている。昨年度に引き続き病院からの外出が困難で、面会もできない状況が続いているため、既定の6か月では支援終了とはならなかった。
- ・対象者が入院中の人であるため、病院の管理体制などが進捗状況に大きく左右した。
- ・地域定着支援では新たに1人が利用契約をした。今年度、緊急での対応等はなく経過したが、もしもの時に相談できる場所として利用されている人が多い。

1.1 指定特定相談支援事業（相談室）

令和4年度は、専任2人、兼務7人の相談支援専門員がサービス等利用計画の作成を行った。

利用者のニーズにあわせた福祉サービスの支給とより本人の意向に合う事業所の利用に向け調整やサービスの状況の確認を行った。

また、相談支援専門員やサービス管理責任者の更新研修などの管理を行った。

(1) 重点事項

- ア 基本相談支援としての総合的な相談支援の実施
- イ ケアマネジメントの手法による、質の高い計画相談支援の実施
- ウ 相談者主体の相談の実施と専門的力量を持った職員の育成強化
- エ 相談支援を実施するため、関係機関との情報共有・連携強化

(2) 取り組み

- ア 生活全般に関わる一般的相談、電話・訪問相談、情報提供、関係者間の連絡調整
- イ サービス等利用計画の作成（サービス利用支援、継続サービス利用支援）
- ウ 専門性の更なる向上のため研修等に参加

(3) 実績

サービス等利用計画

作成件数 (件)

	サービス利用支援	継続サービス利用支援
令和3年度	224	521
令和4年度	230	518
比較	6	△3

(4) 職員体制 (R5.3.31 現在)

管理者 相談支援専門員

まとめと課題

- ・例年と同じく、福祉サービスを終了していくケースも定期的にあるため、今後も依頼があれば新規計画相談も受入れし、相談件数の維持をしていく。
- ・課題としては、福祉事業を行なうに当たって、必ず専任での配置基準があるサービス管理責任者と計画相談を行う相談支援専門員資格の更新研修受講を漏れのないよう管理していくことと、職員が各資格研修を計画的に受講して資格取得できるようにしていくことがあげられる。

1.2 指定居宅介護・重度訪問介護事業（定員なし） (ヘルパーステーションてくてく)

契約者数が23人と増加傾向にある。グループホームから一人暮らしや自立生活援助事業の支援修了者が居宅介護を利用する等の流れが定着してきた。

地域で暮らす障害者を支え、地域生活の継続に必要な支援を行った。また、将来的に一人暮らしになった時に自宅での生活が続けられるよう予防的に支援もしている。

ライフサポートりんどうで行う居宅介護支援の特徴として精神障害の支援に特化し、より専門的に体調を考慮した支援を行った。

(1) 重点事項

- ア 安定した地域生活の継続
- イ 利用者の日常生活及び社会生活の総合的支援

(2) 取り組み

- ア 調理・洗濯・掃除・買物・通院介助・その他必要な援助を行う。
- イ 必要に応じて健康や日常生活上の相談や助言を行う。

(3) 実績

ア 年度比較

	実契約者数	新規利用者数	解約者数
令和3年度	19	6	1
令和4年度	23	6	2
比較	4	0	1

イ 月別利用実績

令和4年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均／合計
開所日数	20	19	22	20	20	20	20	20	20	19	19	22	241日
延べ支援回数	52	54	51	55	43	67	65	73	76	74	78	74	762回
登録実人数／月	17	17	17	17	17	19	19	20	22	22	22	20	19.0人

(4) 職員体制（令和5.3.31現在）

管理者、サービス提供責任者、支援員

まとめと課題

- ・利用者の特徴や支援の方法で支援者間で担当を交換したり、複数の支援者が関われるように体制を整え、一人の支援員に負担がかからないようにした。
- ・現在5人の支援員が全員他の事業との兼務で支援している。更なる利用契約者増を目指すには、専任の支援員も必要となる。